

2019年11月26日(火)

老球の細道512号

## ミニ比較三原則

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ローマ教皇が故ヨハネ・パウロ2世以来38年ぶりに来日した。教皇は核兵器の使用と所有を一切認めない考えに立って、被爆地の日本から「核なき世界」の実現を世界にアピールするために、広島、長崎を訪問する。

日本には1960年代故佐藤栄作首相時代に決められた「非核三原則」というものがある。①核を持たない②核を作らない③核を持ち込まない、である。このことにより、佐藤栄作首相はノーベル平和賞を受賞した。

さて、日本にはもう一つの「比較三原則」がある。字が違うのであるが、漫画家であり、「ゆるキャラ」の生みの親である三浦じゅん氏が打ち出した子育てや教育で使われている教訓である。①親、兄弟と比較しない②他人と比較しない③過去の自分と比較しない。

この考え方はそっくりバスケットボールの指導にも生かされると思う。

**一・親と比較しない**：親は情けないわが子に向かって「お父さんはお前の年の頃はもっと根性があったぞ。『巨人の星』と『柔道一直線』を見て育ったからな。それに比べてお前は情けない」。私も我が子に100本シュートを打って70本しか入らない頃に「お父さんは90本入ったぞ」とプレッシャーをかけていたことがあった。間違っていた。時代が違うことを忘れてはいけない。10円玉でダイヤル電話をしていた親の時代と、生まれながらにして携帯やスマホなどで国際電話、テレビ電話をかけることができる時代環境の違いは大きい。

**二・他人と比較しない**：「なぜあのチームに勝てないのだ」「なんで優勝できないのだ」「あんなに練習してきたのに負けてばかりいる」。このようなため息があちこちから聞こえてくる。大会で1番になる、どこそこのチームに勝つということは目標としては良いことかもしれないが、それを絶対視してしまうと選手もコーチも負けた時苦しくなってくる。

どんなに自分たちが練習を積み努力しても、相手がそれ以上に能力があり努力すれば勝てない。上には上がいるのが勝負の世界である。狭い世界、低いレベルで他人と比較してもむなしさだけが残る。

**三・過去の自分と「比較せよ」**：ここが三浦氏と私の違いである。バスケットボールのコーチの神様ジョン・ウッデンの真の成功、勝利に係る要素「なりうる最高の自分」を目標にして、前の大会と今回の大会とではどのように変わったか、進化したかを比較してほしい。真の競争相手は自分自身である。

今日、ローマ教皇の日本訪問とミニバスケの地区大会最終日をコラボしながら考えさせられた。過去の自分に比べて現在の自分をどのくらい進化させることができるかが真の戦いである。「敵は我にあり」。折しも今日(11月24日)は「進化の日」。160年前、進化論を唱えたダーウィンが『種の起源』を出版した日にちなむそうだ。